

$$R = \frac{G}{100} = \frac{165}{100} = 1.65\%$$

$$M = 1650 \cdot 300 = 495000 \text{ kg} \cdot \text{cm}$$

$$\delta = \frac{M}{J_y} = \frac{495000}{4820} \cdot 18$$

$$= 1.330 \text{ kg/cm}^2$$

なる繊維強度を得、此は稍々許容繊維強度に近きものであるが矢張り垂直材断面の不足を示してゐるのである。故に此の規定に従つて垂直材を設計しても相當の安全率にはなるのである。吾國に於いて中路結構橋設計する場合にはエンゲツサー、ゾライヒに由るも可なりと雖も計算に相當の手續を要し、且つ中路結構橋垂直材は相當重大なる役割を演ずるものなるを以て充分の安全率を見込み米國の規格乃至獨逸の規格に由るを可とす。

## 設計資料

### 道路改良會技術部

#### 中津橋設計圖に就いて

本橋は國道第十四號線中長野縣北佐久郡中津村地内千曲川に架設するため設計せられたるものであつて、橋長131.4m有效幅5.5mの突桁式鋼橋である。

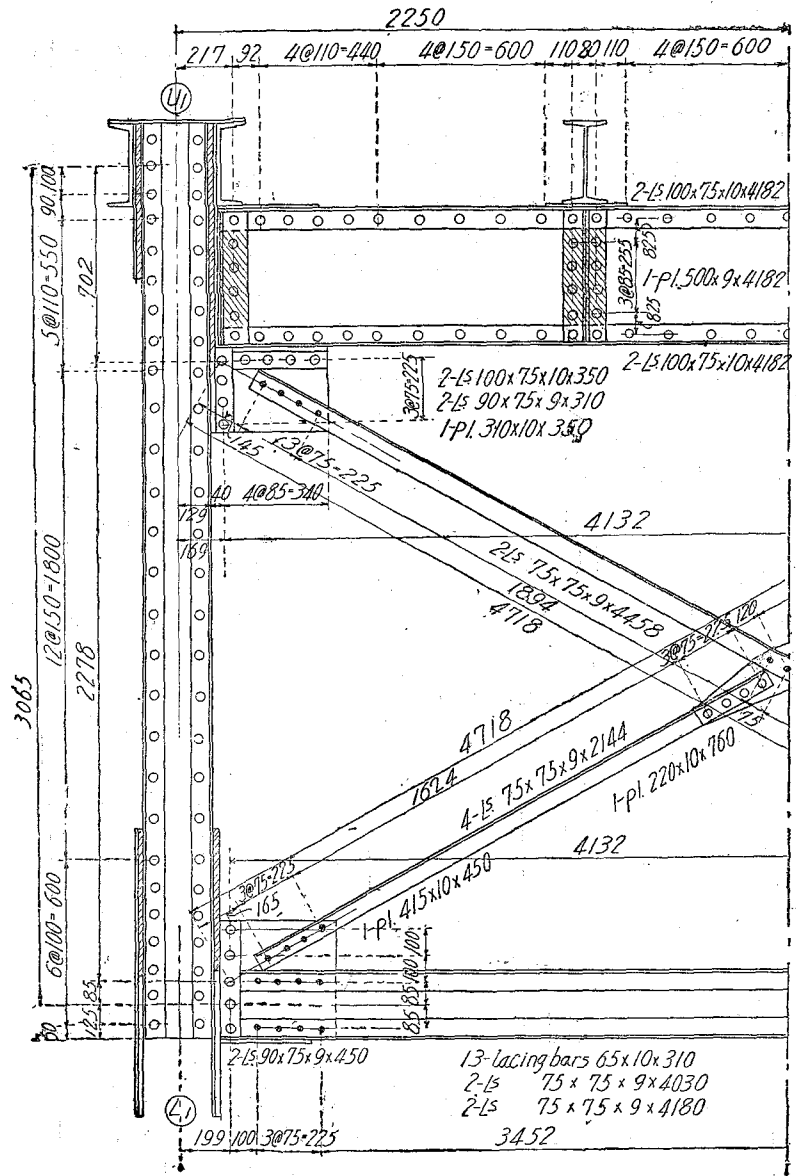
本橋の設計は同縣土木課鈴木邦彦氏指導の計に楠仙之助氏の手により成り、本形式の採用に當りては各種形式の橋梁に就いて、經濟的共他を比較研究の上から決定せられたるものである。

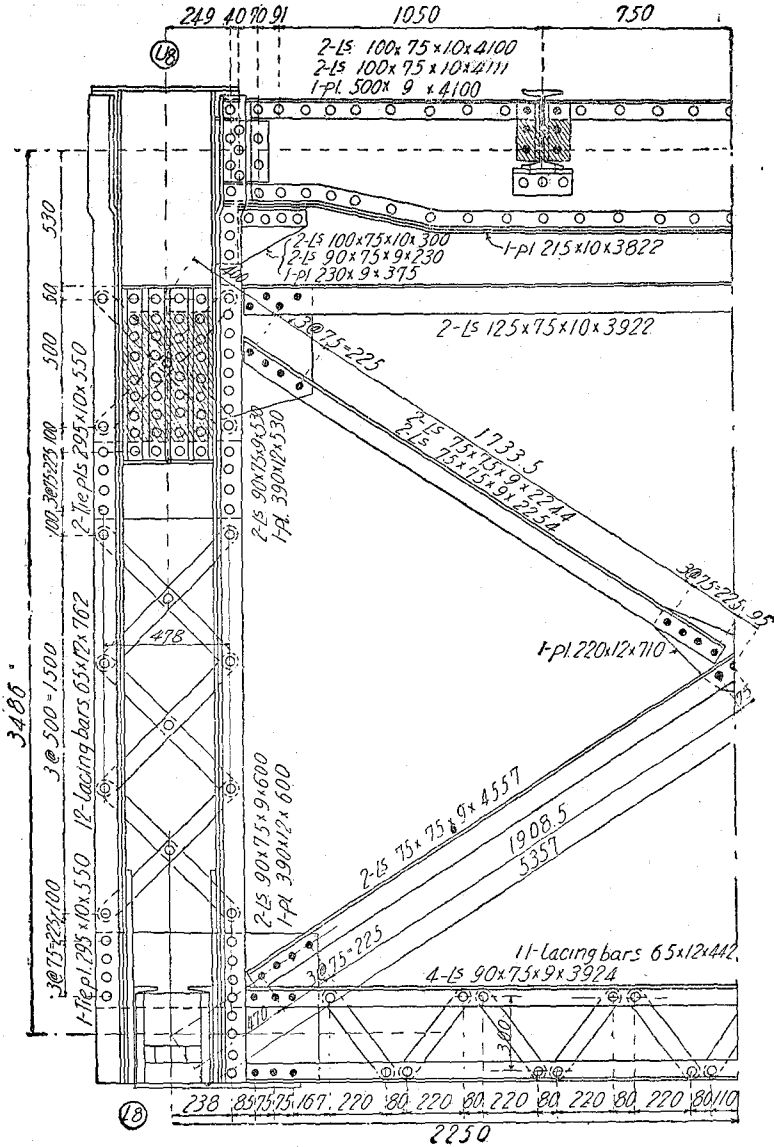
従つて之等の圖書材料に就いては、本橋竣工の曉に於いて施工の記録と共に本誌上に發表せられん事を望む次第である。(道第二報)

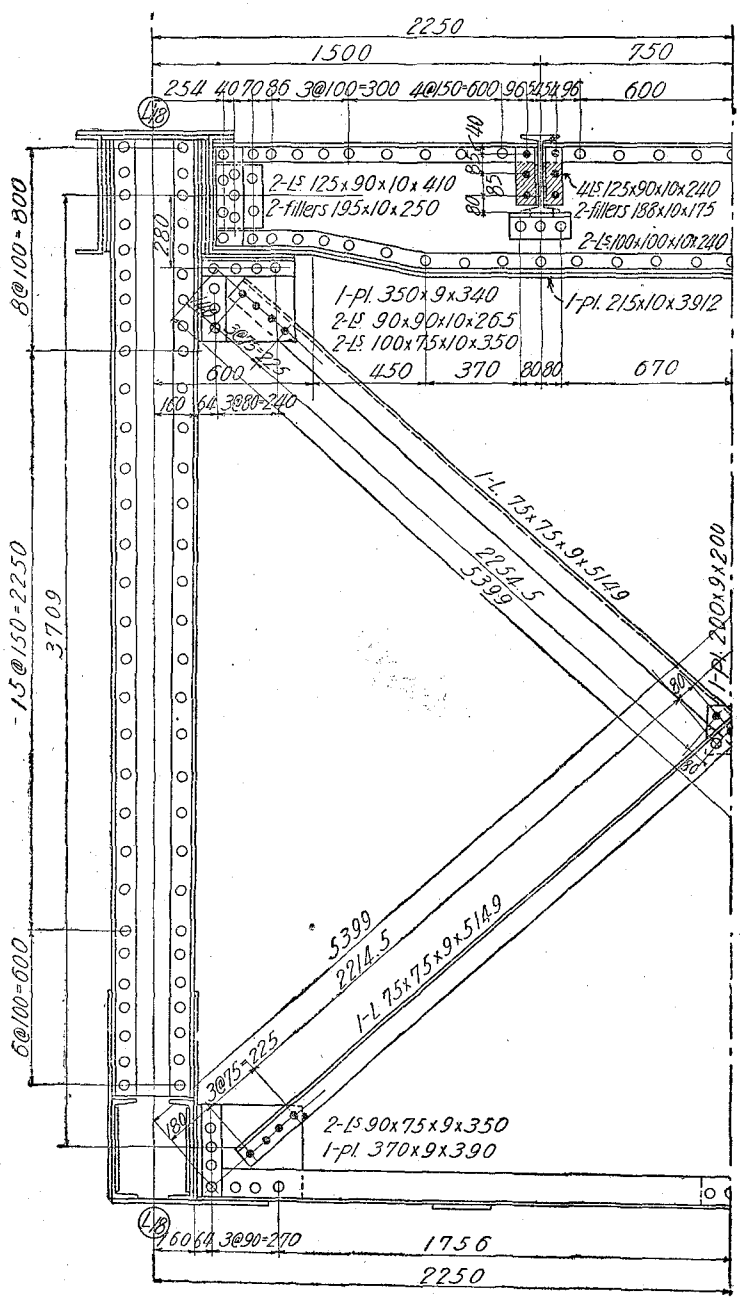
















DETAIL OF HINGE  
SCALE 1:5

